特別国民体育大会

我　ら　か　く　戦　う

期　日　令和５年１０月７日（土）～１０月１７日（火）

会　場　鹿児島県鹿児島市　他

公益財団法人 北海道スポーツ協会

我　ら　か　く　戦　う

特別国民体育大会（本会期実施競技）

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	4	個人6位・3点 （エケ ジュニア瑠音／成年300m） 個人6位・3点 （高橋 佑輔／成年110mH） 個人5位・4点 （小川 蒼生／少年A100m） 個人3位・6点 （石田 正龍／少年B100m） 個人5位・4点 （館山 正真／少年A300mH） 個人3位・6点 （大垣 尊良／少年B円盤投） 個人5位・4点 （久保田 亜由／成年砲丸投） 個人3位・6点 （山崎 心愛／少年B100m）	選手エントリー枠29名のところ25名のエントリーとし、少数精鋭での戦いとなる。	小南 拓人（㈱染めQテクノロジィ）東京オリンピック代表 寺田 明日香（㈱ジャパンクリエイトグループ）東京オリンピック代表	小川 蒼生（立命館慶祥高等学校）インターハイ5位 館山 正真（北海道栄高等学校）インターハイ8位 山崎 心愛（旭川志峯高等学校）インターハイ3位
サッカー	成年男子	4	団体3位	若い選手が多くいるので、全試合アグレッシブに戦う。	本塚 聖也（㈱BTOP） 相澤 匠（東海大学札幌校舎）	天皇杯北海道代表（BTOP北海道） YouTuber（早起き道リーガー）が所属している。
	少年男子	2	団体16位	自分たちの時間帯が少ないと想定しています。そんな中でも少し特徴のある攻撃を仕掛けようと考えています。それでも守備の時間が長いと思うので粘り強く我慢して戦いたいと思います。	川崎 幹大（北海道札幌真栄高等学校） 安達 朔（北海道札幌西陵高等学校） 大石 蓮斗（札幌大谷高等学校）	インターハイ：札幌第一高等学校、札幌創成高等学校2回戦敗退、旭川実業高等学校3回戦敗退 連続出場：川崎 幹大（北海道札幌真栄高等学校）、安達 朔（北海道札幌西陵高等学校）
	少年女子	2	団体24位	まずは現実路線で1回戦に照準を定めてそこに全力を尽くす。ただ、昨年準優勝の静岡と1回戦で当たることができたので、その水準を肌で感じれることはアドバンテージとなる。		インターハイ：北海道文教大学附属高等学校1回戦敗退、北海道大谷室蘭高等学校1回戦敗退
テニス	全種別	3	全種別ベスト16	少年少女に中学3年生、成年女子では大学生の2名が出場を決めました。全体を見て若い選手が多いので思い切り戦ってきます。	少年女子：小田島 衣吹（札幌市立啓明中学校） 成年女子：齋藤 優寧（早稲田大学）	齋藤 優寧（早稲田大学）2022年度全日本大学室内ダブルス優勝 小柳 遥人（東海大学付属札幌高等学校）・小坂 麻陽（札幌光星高等学校）2023全国インターハイベスト32 齋藤 聖真（㈱リコー）と齋藤 優寧（早稲田大学）が兄妹で出場 矢部 馨（北海道旅客鉄道㈱）・駒目 和花（日本体育大学）・小柳 遥人（東海大学付属札幌高等学校）・小坂 麻陽（札幌光星高等学校）2年連続出場
ホッケー	成年男子	2	団体4位・40点	守りを強化して、最小得点に抑える。少ないチャンスから得点を決める。	布施 亮太（㈱札幌映像プロダクション） 昨年まで朝日大学ホッケー部の中心選手、今年から加入し攻守がアップしている。	
	成年女子	2	団体5位・20点	苦戦する試合が予想されるため、失点されないように粘り強いプレーをする。	GK高橋 花鈴（山梨学院大学）は、インドアホッケー日本代表候補選手	
	少年男子	3	団体5位・20点	抽選次第である。	FW吉田 隼斗（北海学園札幌高等学校） 2023年U18日本代表候補最終選考参加	2023北海道インターハイ 北海学園札幌高等学校 1回戦3-0夕陽丘（大阪） 2回戦1-8慶応義塾（神奈川）
	少年女子	2	団体5位・20点	抽選次第である。		2023北海道インターハイ 北海学園札幌高等学校 2回戦1-7天理（奈良県）
ボクシング	全種別	4	個人3位・5.5点 （中島 陽人／少年P級） 個人3位・5.5点 （南 龍聖／少年LW級） 個人1位・8点 （金澤 大和／成年LF級） 個人2位・7点 （黒部 竜聖／成年M級） 個人2位・7点 （大野 毅人／成年LH級）	北海道がUJから育ててきた選手が揃い、指導者含め全員が成長を見てきて指導してきている選手団であり、個人競技では特に大切な対1でのコミュニケーションには不安はなく、それぞれが普段の実力を発揮できると考える。	黒部 竜聖（東洋大学） 成年ミドル級国体2位	中島 陽斗（北海道札幌工業高等学校）インターハイベスト16（ピン級） 南 龍聖（北海道札幌工業高等学校）インターハイベスト16（ウェルター級） 黒部 竜聖（東洋大学）国体ミドル級2位 大野 毅人（日本体育大学）国体ライトヘビー級3位 金澤 大和（法政大学）北海道ボクシング連盟金澤隆幸会長の息子 K&Kボクシングクラブ、札幌創成高等学校を経て、法政大学へ入学。K&Kボクシングクラブ代表兼北海道ボクシング連盟会長の息子で期待が高まる。
バレーボール（6人制）	成年男子	4	団体3位	個々の力を発揮し、組織的バレーを展開することで上位を目指す。	主将：白石 啓丈（日本ルクソールシステム㈱）ビーチバレーボールとの二刀流	今大会に向けてのチーム結成のため、戦績無し。
	成年女子	1	団体8位	先ずは初戦突破を目標とし、攻守共に諦めず挑む！	真田 知紗都（アルテミス北海道） チーム入団3年目の成長株の選手です！特に攻撃面での活躍に期待！	2022年度第13回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会 東部決勝リーグ準優勝 2022年度第13回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会 グランドチャンピオンマッチ優勝
	少年男子	3	団体4位	身長が高い選手が多いのでそこをいかせるかどうかによって試合の流れを左右することになるであろう。2枚エースも機能し、全員攻撃ができる状況を増やせれば上位進出を狙えるであろう。	二川 颯斗（東海大学付属札幌高等学校） 攻守の要として精神的な柱となる選手である。 松井 陽輝（北海道旭川工業高等学校） 3m50cm近い高さからの攻撃やブロックが魅力である。	
	少年女子	3	団体5位	U19の世界選手権を経験してきたエース笠井季璃（旭川実業高等学校）を中心に攻守バランスの取れたチームになることが予想される。例年に比べて全体的に高さがあるので、ブロックの機能が鍵を握る。	笠井 季璃（旭川実業高等学校）U19日本代表選手 川嶋 琉姫（札幌山の手高等学校）高校選抜選手	インターハイ：旭川実業高等学校／予選リーグ突破、札幌山の手高等学校／予選リーグ突破

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
バスケットボール	成年男子	3			高野 皓太（㈱椿の会）Camellia	
	成年女子	4	団体3位・27.5点	ハイブリッド型の選手が多く高い連動性でインサイド、アウトサイドをバランスよく攻める。また数種類のディフェンスを駆使して相手チームのオフェンスのリズムを狂わせるかがポイント。	大山 瑚南菜（札幌山の手高等学校）が176cmのポイントガードとしてゲームをクリエイトする。谷口 憂花（札幌山の手高等学校）の得点力、栗林 瞳（札幌山の手高等学校）のディフェンスと外角シュートが勝利のポイント。	札幌山の手高等学校 2023インターハイ3位 2022ウィンターカップ2位 ThirtyGirls 2019年全日本社会人選手権3位 浦田 志奈（西出興行㈱）と浦田 瑛奈（㈱第一岸本臨床検査センター）は双子でレバンガー日入団を果たした故 佐藤 竜弥の教え子。 品川 佳江（㈱アインファーマシーズ）の息子は高校3年生で札幌山の手高等学校の3人と同じ学年。
	少年男子	3	団体16位	前回大会で一回戦敗退した為、それ以上の戦績を残したい。	西村 優真（北海道文教大学附属高等学校・レバンガ北海道U18） 安藤 煌太朗（北海道文教大学附属高等学校・レバンガ北海道U18） オフェンス、ディフェンスにおいてバランスが取れている。	
	少年女子	4	団体5位・12.5点	例年より高身長かつ技術のある選手が多いですが、それに甘えずディフェンスから足を動かしチームで戦い、オフェンスではそれぞれの武器を活かしあって、勝利を目指します。	庵原 有紗（日本航空高等学校北海道） 澤 桃花（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校） 水林 夢翔（札幌市立東月寒中学校） 3人とも高身長ながら器用さを持ち合わせている。	札幌山の手高等学校：インターハイ第3位 日本航空高等学校北海道：インターハイベスト16
セーリング	全種別	2	個人5位・4点 （松苗 幸希／成年女子ILCA6級）	毎年継続して得点がとれるよう選手8名、少数精鋭で入賞を目指します。	松苗 幸希（北海道セーリング連盟） 2013年東京国体 成年女子SH・SR級3位 鹿屋体育大学出身	
ウエイトリフティング	全種別	4	個人4位、4位 （中川 賢信／スナッチ、ジャーク） 個人3位、7位 （上田 輝良／スナッチ、ジャーク） 個人8位、6位 （榎本 凌也／スナッチ、ジャーク） 個人5位・4点 （丹 翔琉／スナッチ） 個人・8位・1点 （舘森 春輝／スナッチ） 個人8位・1点 （近藤 勇介／スナッチ）	少年男子 中川 賢信（北海道士別翔雲高等学校）、榎本 凌也（北海道士別翔雲高等学校）2年生の台頭、上田 輝良（北海道札幌琴似工業高等学校）3年生の実力発揮。 成年男子 丹 翔琉（日本大学）の得意種目の成長、その他選手の安定感から点数獲得を期待。	2023インターハイ 102kg級 4位 中川 賢信（北海道士別翔雲高等学校） 89kg級 6位 上田 輝良（北海道札幌琴似工業高等学校） 89kg級 8位 榎本 凌也（北海道士別翔雲高等学校） 学生新人戦優勝の丹 翔琉（日本大学）のスナッチ	
ハンドボール	成年男子	1	団体16位	若いチームで経験は少ないが、守ってみんなで走っていきたい。 個々のいい部分を引き出し、チーム力で戦っていきたい。	臼井 拓己（東海大学湘南キャンパス）シュート力 松崎 奨平（東海大学湘南キャンパス）切れのあるプレー 荒木 胤生（㈱アクティオ・HC金沢所属）6度目の挑戦で掴んだ国体への強い気持ちあるチームを引っ張るプレー	小学・中学・高校・大学とずっと一緒にプレーしている佐藤 秀亮（東海大学湘南キャンパス）・臼井 拓己（東海大学湘南キャンパス）のコンビ
	成年女子	1	団体16位	登録メンバー全員がコートに立ち、今大会に向けて練習してきたハンドボールを展開できるようチャレンジしたい。目標は全選手得点すること。	淺見 ののか（札幌国際大学） 高身長が有利なハンドボール競技において、本選手は150cmと極めて低身長であるが、細かいステップ、相手の裏をかくプレー、低身長ならではの低さを武器としたプレーを発揮してほしい。	2021年度全日本インカレ：2回戦敗退 2022年度全日本インカレ：初戦敗退 秦野 ひなた（札幌国際大学） ハンドボール競技の北海道予選会では、弟が成年男子のカテゴリーで、妹が少年女子のカテゴリーで出場していた。惜しくも弟と妹の本国体出場は叶わなかったが、その想いを背負って頑張ってほしい。
	少年男子	2		戦力的には、主将の吉田の離脱が痛手ではあるが、川尻 謙臣（函館大学付属有斗高等学校）を中心に攻撃を組み立て、GK西里 鳳将（函館大学付属有斗高等学校）を中心に粘り強いディフェンスから速攻につないで北海道代表として誇りを持って戦いたい。	アカデミーに選出された2年生GK西里 鳳将（函館大学付属有斗高等学校） 広い視野と運動能力で攻撃を組み立てる川尻 謙臣（函館大学付属有斗高等学校） バックプレーヤー、ピヴォットと複数のポジションをこなす越中谷 心（北海道函館工業高等学校）	函館大学付属有斗高等学校 インターハイ1回戦敗退 北海道函館工業高等学校 インターハイ3回戦敗退
	少年女子	1		インターハイ初戦敗退を考慮すると、16チーム参加の今大会、初戦突破を目指す。	伊藤 きある（札幌新陽高等学校）力強いシュート力での得点。 小林 優李香（北海道札幌月寒高等学校）ゴールキーパーの勝負どころでのセーブ力。	2年連続出場選手が4名。 加藤 璃子（北海道札幌月寒高等学校）は父親も元ハンドボール競技、国体選手。
自転車	少年男子	5	個人2位・7点 （佐藤 后嶺／ロードレース） 個人1位・8点 （杉浦 颯太／1kmTT） 個人1位・8点 （渡邊 一気／ロードレース）	3名共実力は全国トップクラスである為、体調やモチベーション等に配慮し技術的な実績もあり、それを信じるだけです。		佐藤 后嶺（北海道石狩南高等学校） 2023全日本選手権男子ジュニアの部優勝、2023UCIニセコクラシック優勝 他 杉浦 颯太（北海道千歳高等学校） 1kmタイムトライアルのジュニア日本記録保持者（高校選抜） 渡邊 一気（北海道科学大学高等学校） 全国高等学校選抜大会自転車競技男子ロードレース優勝 杉浦 颯太（北海道千歳高等学校）、渡邊 一気（北海道科学大学高等学校）は昨年度に引き続き国体出場。 杉浦 颯太（北海道千歳高等学校）はスプリント3位、チームスプリント（団体）の優勝メンバー。 渡邊 一気（北海道科学大学高等学校）はロードレース8位入賞。

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
ソフトテニス	成年男子	3	団体8位	内海 大輔（CLOSSTY HOLDINGS）・榊原 健太（CLOSSTY HOLDINGS）ペアを軸にチームワークと学生の若い力で勢いに乗り、勝利を掴みたい。	内海 大輔（CLOSSTY HOLDINGS）・榊原 健太（CLOSSTY HOLDINGS）ペア 昨年度全勝で国体3位に貢献。今大会も活躍が期待出来る。	
	成年女子	2	団体8位	最後まで諦めずトライし続けることで成長しながら勝ち抜いていく。	下國 ひなた（青山学院大学） 尾崎 瀬里奈アレクサンドラ（日本体育大学）	
	少年男子	4	団体4位・25点	香川県が頭一つ抜けている存在であるが、北海道も含め拮抗した状況である。上位入賞も期待される戦力である。	超攻撃型布陣のダブルフォワードで戦う木原 真樹（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）・宇都 太智（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）ペア 安定感抜群のテニスをする西 拓郎（北海道科学大学高等学校）・小杉 昂道（北海道科学大学高等学校）ペア チームの勝ち頭として活躍が期待される。	インターハイベスト8入賞した酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校を中心としたメンバーである。 6月に開催された全日本ジュニア（ハイスクールジャパンカップ）では、西 拓郎（北海道科学大学高等学校）・小杉 昂道（北海道科学大学高等学校）ペア、木原 真樹（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）・宇都 太智（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）ペアがベスト16に入っている。 北海道インターハイでは、他競技も含めベスト8以上に入賞した競技が少なく、団体では酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校がベスト8入賞し、今国体入賞・活躍が期待される。
	少年女子	3	団体8位	組み合わせにもよるが個々の力を最大限引き出すことができれば、入賞の可能性もでてくる。		インターハイ 高橋 果鈴・吉根 珠樹（ともに酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）4回戦敗退 石垣 陽菜・藤岡 七星（ともに札幌龍谷学園高等学校）4回戦敗退 椎木 温日（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）4回戦敗退
卓球	成年男子	3		今回はトーナメントのため、昨年以上に1試合ずつ気を引き締め1勝1勝と勝ち進んでいきたいと思います。	小松 隼大（中央大学）大学の主軸で活躍している選手で期待しています。 能戸 大夢（北海道旅客鉄道㈱）2年連続代表選手で、ケガに悩まされておりましたが、昨年より調子が上がってきており期待しております。	小松 隼大（中央大学）2023全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部 3位のチームの主軸メンバー 小松 隼大（中央大学）、玉井 嵩大（埼玉工業大学）は同郷（江別市）小さい頃から一緒にプレーしております。チームワークに期待しております。
	成年女子	2		今年は愛知工業大学で活躍している信田 ことみ選手が代表入りしており、信田 ことみ選手は上位チームの選手とも互角に戦えると思われるが、絶対的エースはいないため、全員で勝ち星を狙いに行くこととなる。		信田 ことみ（愛知工業大学）2022全日本大学総合卓球選手権大会女子ダブルス 優勝 鎌田 那美（キヤノンメディカルシステムズ㈱）2019年度全日学女子シングルス ベスト4 高山 結女子（北海道旅客鉄道㈱）2018年度インターハイ女子シングルス 3位
	少年男子	3		インターハイ北海道予選会の優勝チームから2名、準優勝チームから1名のチーム構成であり、チーム北海道としてベスト8入賞の壁を突破したい。	北海道第1代表である濱田 直人選手（北海道科学大学高等学校）	北海道科学大学高等学校が今年度のインターハイベスト16
	少年女子	3		出場選手中2名がインターハイランキング決定戦進出者であることから、チーム一丸となり、5位入賞を目指す。	松元 菜音（北海道留萌高等学校） 岡 るる（札幌大谷高等学校）	松元 菜音（北海道留萌高等学校）昨年ジュニアナショナルチームU15、インターハイベスト32 岡 るる（札幌大谷高等学校）インターハイベスト32
軟式野球	成年男子	3		投手を中心とした守り抜く戦いをし、上位進出目指す。	投手の多和田 真三郎（㈱六花亭）軟式野球界から再びNPB復帰を目指す。	
相撲	成年男子	3		昨年届かなかった決勝トーナメント進出を目指す。		佐藤 勇輝（北広島市役所）と佐藤 友輝（安平町役場）は兄弟。
	少年男子	3		普段通りの力を出せれば十分に戦える力がある。心技体の心を強く持ち、まずは1勝を目指す。		
馬術	全種別	3	団体1位・8点 個人1位・8点 （林 伸伍／馬場馬術） 個人1位・8点 （林 伸伍／自由演技） 個人3位・6点 （楠木 貴成／大障害） 個人3位・6点 （梁川 正重／スピハン） 個人6位・3点 （村上 陽子／標準障害）	今回、昨年同様成年女子馬場馬術が欠場となるが、今年は少年の馬場馬術競技に出場できる。成年男子の馬場と一緒に盛り上げていくとともに、昨年優勝した少年団体競技でも結果を残したい。	成年男子馬場馬術：林 伸伍選手（アイリッシュアラン乗馬学校）ふるさと選手	林 伸伍（アイリッシュアラン乗馬学校） 東京オリンピック・デンマーク世界選手権の日本代表選手 楠木 貴成（ノーザンファーム）連続16回出場 横山 瞬・横山 ひかり（ともにノーザンファーム）夫婦で出場
フェンシング	成年男子	4	団体8位	経験をいかした試合運びで、上位進出を目指す。		森 翔一選手（星槎国際高等学校川口学習センター(教)） ワールドカップ、モスクワグランプリ出場（2018） 第73回国民体育大会サーブル準優勝（2018） 第77回国民体育大会サーブル第6位（2022） 小林 善洋選手（NPO法人北海道クラブ） 第73回国民体育大会サーブル準優勝（2018）
	成年女子	2		初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す。		
	少年男子	3	団体16位	若手ならではのフットワークを生かしたダイナミックなフェンシングで上位を目指す。		阿部 磨郁（札幌大谷高等学校） 第7回全国中学生フェンシング選手権大会 個人フルーレ8位 第8回全国中学生フェンシング選手権大会 個人サーブル6位 第69回全国高校総合体育大会 団体・個人フルーレ出場、個人サーブル6位 吉野 光一郎（札幌大谷高等学校） 2年連続 国民体育大会出場 光川 眞生（札幌大谷高等学校） 第69回全国高校総合体育大会 団体出場

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
フェンシング	少年女子	2		初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す。		井下 愛莉（札幌大谷高等学校） 2年連続国民体育大会出場 第69回全国高等学校総合体育大会 団体・個人出場 第8回全国中学生選手権大会 個人ベスト16（エペ） 為永 香音（札幌大谷高等学校） 2年連続国民体育大会出場 第69回全国高等学校総合体育大会 団体・個人出場 河村 瞳（札幌大谷高等学校） 第69回全国高等学校総合体育大会 団体・個人出場
柔道	成年男子	4	団体5位	先鋒の鷲見 仁義（北海道警察本部）は国際大会も経験しており、必ず点数を勝ち取ってくることが原則である。 次鋒の竹下 徹（中央大学）は、全日本学生体重別で3位に入っている実力を発揮できることを期待している。その他は失点をしないようにする展開になると考えている。		鷲見 仁義（北海道警察本部） 2017年世界カデ55kg 第3位 2017年ポーランドカデ55kg 準優勝 2018年インターハイ60kg 準優勝 竹下 徹（中央大学） 2022年度全日本学生柔道体重別選手権大会73kg 第3位
	女子	3		昨年初戦で開催の栃木県との対戦となり、あとわずかであったが敗戦。 今年はひとつでも多く勝ち上がりたい。	先鋒の横地 萌恵選手（北海高等学校）長身で内股の切れる選手です。	
	少年男子	4	団体1位・40点	バランスの取れたチーム構成で、安定した戦いが期待できる。選手のモチベーションも高く、昨年度ベスト4以上を狙う。	昨年度も、代表として活躍した先鋒の川村 蓮（北海高等学校）、安定した実力の中堅の三田 朝陽（北海高等学校）、エースで副将の山口 瑛太（北海高等学校）の活躍次第では優勝も狙える。	昨年度の栃木国体において少年男子はベスト4に進出している。
ソフトボール	成年男子	1		自分たちのプレーをし、ミスを最小限に抑え、試合に挑みます。		
	成年女子	2	団体14位	攻守ともにひとつひとつのプレーを丁寧に、まずは目の前の勝利を目標として、全力で取り組む。		
	少年男子	1	団体8位	道内4校の生徒でチームを結成しましたが、日頃の練習で培ったチームワークで1勝を目指して頑張ります。		
	少年女子	2	団体5位	バッテリー中心に粘り強く守り、ロースコアで勝ち抜きたい。	中学生時バッテリーを組んでいた投手・中村 四季（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校）と捕手・宮塚 心春（北海道札幌東商業高等学校）	選抜大会ベスト16 インターハイ1回戦敗退
バドミントン	成年男子	3	団体5位	シングルスにやや不安があるので、ダブルスを軸にいい流れをつくっていきたい。	大越 泉（（一社）コンサドーレ北海道スポーツクラブ） チームで唯一のSJトップチームでの経験を持つ	
	成年女子	3	団体9位	シングルスで優勝した内山は怪我の為、補欠を入れる事により戦力ダウンになり、今出来る事をしっかりやって道外遠征に行っていろいろと試して戦いたいと思います。		高橋 沙弥（北翔大学）は昨年の全日本学生（インカレ）でシングルスベスト16入賞 高橋 沙弥（北翔大学）・深田 百香（北翔大学）は昨年の東日本学生でダブルスベスト8入賞
	少年男子	5	団体3位	インターハイ個人戦シングルスで河北 勝希（札幌龍谷学園高等学校）が優勝候補の選手に勝利を挙げた。この実力から北海道選手団として入賞目指して戦いたいと思っている。	河北 勝希（札幌龍谷学園高等学校）	河北 勝希（札幌龍谷学園高等学校）個人シングルスベスト16
	少年女子	2	団体9位	少年女子が全県出場なので、厳しい戦いが予想されるが、インターハイを上回るベスト8（5位入賞）を目標とする。メンバー全員3年生であるため、高校選手生活最後の集大成として、懸命に戦いたい。	竹内 紅葉（札幌静修高等学校）シングルスインターハイベスト16 もうひとつ上のレベルを目指し、単複の柱として活躍を期待したい。	出場メンバーのダブルスは2回戦敗退、シングルス2人出場中1人が2回戦敗退、1人がベスト16
弓道	成年男子	3	団体4位・15点	昨年出場の団体戦大前 中田 祥選手（北広島市役所）の出足が結果を左右すると考える（昨年は16射15中）		
	成年女子	3	団体4位・15点	今年は、初出場が2名おり、国体優勝経験のあるベテラン選手を信頼し落ち着いた射が出来れば波に乗れると考える。昨年は遠的・近的とも予選通過ラインであったが、あと1本が足りなく悔しい思いをしているので平常心で試合に臨めば目標に到達すると考える。		1の立の前田 貴美香（㈱ヒロトミ建設）姉と2の立の前田 瞳可（特別養護老人ホーム 清公園）妹は姉妹出場。 特に前田 瞳可（特別養護老人ホーム 清公園）は昨年代表選考されていたが、コロナ蔓延の中、止む無く出場を辞退しました。リベンジを期待したい。
	少年男子	3	団体8位	暑さに負けず集中力を切らすことなく戦い、のびのびとした射で高的中を狙いたい。		
	少年女子	3	団体10位	遠的競技は苦戦を強いられるものと思われるが、近的競技でその瑕疵を埋め、上位入賞に期待したい。		

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
ライフル射撃	全種別	3	個人3位、8位・計7点 （柳 あさこ／R3P・R60PR） 個人8位・1点 （佐竹 優悟／AP60） 個人8位・1点 （安達 太郎／CFP60） 個人8位・1点 （佐藤 櫻子／AP60W） 個人7位・2点 （大島 千枝／AR60W）	女子選手に有望な選手が多いため、皇后杯の8位以内入賞を目指す。	柳 あさこ（（医）栄宏会28Clinic） 茨城・栃木国体で連続入賞。全国大会での優勝経験もあり、全国レベルの選手である。 大島 千枝（北海道医療大学） 昨年、大学1年生でインカレ入賞し、成長中の選手。今回入賞を十分に狙える力を持っている。	佐竹 優悟（同志社大学） 令和4年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会2位 柳 あさこ（（医）栄宏会28Clinic） 令和5年度東日本ライフル射撃競技選手権大会3位、栃木国体8位入賞 夫婦での出場（夫は東京都代表選手） 大島 千枝（北海道医療大学） R4全日本学生スポーツ射撃選手権大会8位入賞 佐藤 櫻子（北海道ライフル射撃協会） 2児の出産・育児を経て競技復帰し、福井国体以来5年ぶりの国体出場（福井国体2位）
剣道	成年男子	4	団体5位・12.5点	先鋒・次鋒で必ず一勝することが出来れば、勝つ可能性は高まる。	對馬 良祐（㈱北洋銀行）対戦相手は情報がなく、一発を期待する。	
	成年女子	4	団体5位・12.5点	昨年と同じメンバーで参戦。リベンジを果たしたい。	今野 結芽（北海道警察） 寶金 由里香（北海道警察）	
	少年男子	4	団体5位・12.5点	先鋒、次鋒で流れを作り、リードして試合が出来れば勝利のチャンスは十分ある。	菊地 祥平（東海大学付属札幌高等学校） 全日本都道府県対抗剣道大会の先鋒として出場している。	昨年の国体で第5位に入賞している。
	少年女子	4	団体5位・12.5点	それぞれの個性を活かし、しぶとく勝利を目指すことを実践する。	小林 芽峯（札幌日本大学高等学校）、伊東 蒼葉（北海道栄高等学校）を中心にチームを編成し強化している。	5名のうち4名がインターハイ団体に出場している。
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体8位	昨年5年ぶりの入賞で今年は更に上を目指すという目標のもと準備をしてきた。他都府県との差は紙一重であるが、いつも通りのプレーが出来れば昨年以上の結果を残せると考えている。	神山 達哉（旭川医科大学） 昨年初出場で自信をつけ今年はチームの中心選手となりつつある。	
	女子	3	団体3位	入賞を目指します。		
	少年男子	3	団体4位	粘り強いディフェンスでロースコアに持ち込み、上位進出を狙いたい。	近藤 悟（札幌山の手高等学校）U17高校日本代表候補に選出。	
スポーツクライミング	成年男子	4	団体5位・12点	今大会で初めてチームを組む杉本 怜（北海道山岳連盟）、坂本 大河（北海道山岳連盟）。二人ともボルダー競技に強い選手なので、入賞できると期待している。		杉本 怜（北海道山岳連盟）ボルダージャパンカップ2023 第8位 坂本 大河（北海道山岳連盟）第17回ボルダリングジャパンカップ 第23位
	成年女子	2	団体12位	成年ということで、世界で活躍する選手と戦うことになる。進学をして練習時間の確保に苦労しているが、2人の均衡のとれた力とチームワークで納得のいく登りをしてくれると思う。		
	少年男子	4	団体3位・18点	成年男子の杉本 怜（北海道山岳連盟）を筆頭に北海道チーム一丸となって良い成績へと繋げる。	齋藤 羚太選手（北海道函館西高等学校）	3年連続国体少年男子の選手として経験と実力を積み上げている。 前回のTNFC本戦でも準決勝まで進出。
	少年女子	3		リード・ボルダー共に8位入賞		
カヌー	全種別	3	個人8位・1点 （大橋 玲奈／スプリント女子C-1） 個人6位・3点 （籔 碧透／スプリント男子C-1）	国体出場経験者が多いため、過去の経験を生かしたレースを目標とする。	大橋 玲奈（㈱NTSロジ） 籔 碧透（自衛隊体育学校）	大橋 玲奈（㈱NTSロジ）2023年度日本カヌー連盟カヌーマラソン日本代表選手 籔 碧透（自衛隊体育学校）2023年度日本カヌー連盟シニア強化指定選手
アーチェリー	全種別	2	団体6位／少年男子 個人8位 （大泉 龍晴／成年男子） 個人8位 （河田 莉依／成年女子）	各種別に主力となる選手が1、2名いるため、チームを引っ張っていく雰囲気づくりをするとともに、3番手の強化・育成・サポートを行うことで、総合力の底上げを図る。	大泉 龍晴（近畿大学） 全日本学生アーチェリー個人選手権2022優勝	中村 美優（オリックス生命保険㈱）元日本代表 大泉 龍晴（近畿大学）全日本学生アーチェリー個人選手権2022優勝 中村 優斗（市立札幌啓北商業高等学校）、太田 琉偉（北海道帯広三条高等学校） 高2、高3と2年連続出場 白木 琉鈴（北海道帯広工業高等学校） 三重国体（中止）を含めたら、高1～高3まで3年連続
空手道	全種別	4	個人5位 （本池 嘉哉／成年男子組手） 個人5位 （佐藤 優輝／成年男子形）	国体での上位入賞の経験が少ない選手であり苦戦が予想されるが、国際大会、全国大会など実績のある選手が多くいるため今大会での入賞を期待する。		

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
銃剣道	成年男子	4	団体8位・3点	大会1日目（10月14日）まずは、1回戦初戦をしっかりと勝ち抜き、大会2日目の2回戦に繋げる。2回戦は特に集中して勝ち抜き、最終日の3回戦・準々決勝に進む。		令和5年8月全日本銃剣道選手権大会に村上 泰啓選手（陸上自衛隊留萌駐屯地）及び 村上 浩隆選手（陸上自衛隊旭川駐屯地）が出場（共にベスト8） 兄弟選手 村上 泰啓（陸上自衛隊留萌駐屯地）・村上 浩隆（陸上自衛隊旭川駐屯地）を有する、国民体育大会少年の部において2連覇達成の経験を持つ。
	少年男子	4	団体8位・3点	大会1日目（10月14日）初戦（1回戦）をしっかりと勝ち抜き、2回戦に繋がる試合を展開する。		谷 武蔵選手（北海道名寄高等学校） 令和5年7月に行われた全日本高校生大会団体戦（3人制）において、3回戦進出（ベスト16）及び個人戦高校1年生の部で優勝 國分 煌斗選手（北海道美幌高等学校）・光永 瞬希選手（北海道北見商業高等学校）は連続出場 谷 博文監督（陸上自衛隊名寄駐屯地）と谷 武蔵選手（北海道名寄高等学校）は親子出場で谷 武蔵選手の兄は、神奈川県チームで選手として出場予定
なぎなた	成年女子	3		大会の経験があるので粘り強い試合をし、先手で頑張ると思う。		
	少年女子	3		リズムにのって先手で戦ってほしい。		
ボウリング	成年男子	3	団体8位・1点 個人8位・1点	厳しい戦いが予想されるが、経験豊富な鈴木 恒有選手（北海道開発局札幌開発建設部）が勢いのある若手3選手をまとめ上げ、特に短期決戦となる団体戦での爆発に期待し入賞を目指したい。		鈴木 恒有（北海道開発局札幌開発建設部） R4全日本年齢別選手権 40歳代の部 準優勝 能呂 孔策（千葉商科大学） R5東日本選手権 選手権者決定戦 優勝 R1茨城国体 少年男子団体戦 優勝
	成年女子	4	団体8位・1点 個人8位・1点	6月30日から行われた東日本ボウリング選手権大会では、地元北海道での大会であったこともあり、団体優勝をするなど目覚ましい活躍をした。今国体では、初めての会場となることもあり、早期のレーンコンディションの把握に努め、まずは入賞となる決勝進出を目指したい。	2人チーム北海道A 番井 琴音（札幌医療秘書福祉専門学校）・清野 えみり（北海道ボウリング連盟）	東日本選手権大会 4人チーム優勝：清野 えみり（北海道ボウリング連盟）・番井 琴音（札幌医療秘書福祉専門学校）・保木 絵理（（医）恒仁会新さっぽろ小児科）・水野 由希子（DCM㈱旭ヶ丘店） 2人チーム優勝：清野 えみり（北海道ボウリング連盟）・番井 琴音（札幌医療秘書福祉専門学校） 個人優勝：清野 えみり（北海道ボウリング連盟） 全日本選手権大会 2人チーム3位：番井 琴音（札幌医療秘書福祉専門学校）・清野 えみり（北海道ボウリング連盟）
	少年男子	3		橋本 旺典（立命館慶祥高等学校）は2回目の国体、田村 悠（歌志内市立歌志内学園）は初めての国体でお互い緊張せず落ち着いて実力を出し切って欲しい。		橋本 旺典選手（立命館慶祥高等学校）は前年度全日本中学選手権にて決勝戦に進出、田村 悠（歌志内市立歌志内学園）は前年度、今年度と全日本中学選手権大会で決勝戦進出したが、二人とも入賞には届かなかった。 橋本 旺典選手（立命館慶祥高等学校）は中3の去年から連続出場し、田村選手も中3で初出場なので二人とも続いて出場をしてほしい。
	少年女子	3	個人8位・1点 （佐藤 美葉／個人） 団体8位・1点 （佐藤 美葉・菅野 綺子／団体）	佐藤 美葉（北海道札幌東商業高等学校）は小学生の時より全国大会の経験もあり期待大。団体戦はレーンコンディションも今回難しいので全体的にスコアも伸びないと思うので二人でしっかりメイクする。	佐藤 美葉（北海道札幌東商業高等学校）はビッグゲームもありスペアも上手いので粘り強く試合すれば入賞もある。	佐藤 美葉（北海道札幌東商業高等学校） 2022年全国高等学校対抗ボウリング選手権大会ダブルス7位入賞
トライアスロン	成年男子	4	個人20位 （古謝 孝明／成年男子） 個人17位 （目黒 凌飛／成年男子）	北海道代表としての誇りと意識を高く持ち、入賞を目指してポイントを獲得できるようベストを尽くしてレースに挑みます。	目黒 凌飛（北星学園大学） 古謝 孝明（こじゃ薬局）	
	成年女子	2	個人30位 （沢田 愛里／成年女子）		沢田 愛里（㈱北海道新聞社）国体でお馴染みの選手となりました。ランニングで順位を上げる粘りのレースを期待します。	
高等学校野球	硬式 少年男子	3		北海高等学校 一戦必勝で接戦をものにしたい。	背番号3／熊谷 陽輝（北海高等学校）投打の主力	第105回全国高等学校野球選手権大会ベスト16
	軟式 少年男子	4	団体1位	北海道登別明日中等教育学校 第68回全国高等学校軟式野球選手権大会同様、守備からリズムを作り、得点につなげる試合をすることで勝利に近づけると考えている。	石川 慎太朗（北海道登別明日中等教育学校） 第68回全国高等学校軟式野球選手権大会では3試合で先発し、好投した。	第68回全国高等学校軟式野球選手権大会ベスト4